

実は気になっていた！ みんなが知りたい常用漢字！

平成22年11月、29年ぶりに常用漢字表が改定されました^{※1}。これに伴い、中学校や高校の国語の教科書と漢字指導も平成24年度から変わります^{※2}。また、「日本漢字能力検定(以下、漢検)」も新しい常用漢字表に合わせて平成24年度から審査基準を改定します。さまざまな影響をもたらす「常用漢字」とは、一体どのようなものなのでしょうか。今回の特集では、これまでの常用漢字の歴史から改定の背景までを紹介します。

イラスト／うつみちはる

? 常用漢字表が改定されたことってどういふこと?!

改定によって常用漢字は
1945字から
2136字に増加!

常用漢字とは、「法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安」(常用漢字表「書き」より)となるものです。平成22年11月30日、昭和56年以来29年ぶりに新しい常用漢字表が内閣から告示され、新たに196字が追加されたと大きく報道されました。

で審議された内容をもとに決められています——このように紹介すると専門家だけで常用漢字が決められていると思われるかもしれませんが、文化審議会の委員、笹原教授によると決してそうではないとのこと。

「常用漢字表の改定は国語の研究者だけでなく、漢字を強く意識しながら使う立場の作家やマスコミ関係者、国語を教える立場である学校の先生など、多彩な方々が集まり議論をして決めました。また、議論は客観的なデータに基づく必要がありますから、世の中で使われている漢字の使用頻度を一

字一字調査した資料を作成しました。今回の改定では新聞、雑誌といった紙の媒体に加え、インターネット上での文字使用の実態まで調べたんです。そして、その調査結果を参考に、社会生活において必要な漢字を3年間かけて議論し、『試案』をまとめました。

さらに、それに対して一般の方々からも意見を募り、それまでの常用漢字表には載っていなかった1000字を超える漢字について検討を重ね、ようやく平成22年6月に文化審議会から『改定常用漢字表』が答申されたのです」

議論の末、新しい常用漢字表には従来の常用漢字表から5字が削除、新たに196字が追加され、1945字が2136字に増えました。常用漢字表は、私たちが生きる情報化社会に対応した目安に生まれ変わったと言えます。

監修
早稲田大学
笹原 宏之 教授



(ささはら ひろゆき)
1965年東京都生まれ。博士(文学)。国立国語研究所主任研究官などを経て現職。日本語学者の立場から、JIS漢字、人名用漢字の制定・改定をはじめ、2010年の常用漢字表の改定にも委員・幹事として携わる。当協会評議員。著書に『国字の位相と展開』(三省堂、金田一京助博士記念賞受賞)、『日本の漢字』(岩波新書)など。

※1 常用漢字表は文化庁ホームページ(<http://www.bunka.go.jp/>)をご参照ください。
※2 詳細は文部科学省ホームページ(http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1299787.htm)をご参照ください。

? 常用漢字っていつからあるの?!

「常用漢字」のおおもとは
戦後に定められた「当用漢字」

戦前までは、漢字を使う上での一律の基準は特ありませんでした。これについて笹原教授は次のように説明します。

「明治期から戦前まで、学校教育や新聞の一部を除いて、社会全体での漢字使用に制限はなかったため、当時の作家たち——例えば森鷗外や夏目漱石は、さまざまな表記を作品に用いました。例えば、『出鱈目』『襯衣』といった当て字や、『豊られる(血塗られる)』『養る』といった訓読みの漢字も使っていたんです。こうした作家たちによる自由な漢字表現は、制限がなかった時代だからこそできたわけですが、漢字をきちんと理解できる人と理解できない人に二分されてしまうという側面もありました」

しかし、戦後になって漢字使用を巡る状況は大きく変化しました。そのきっかけが昭和21年に告示された「当用漢字表」です。これにより、当用漢字以外の漢字はひらがなやカタカナで

書くべきだと制限されました。当用漢字表が告示されたことで日本語の表現はやや窮屈にはなりましたが、一方でメリットもありました。日本人の知的水準の引き上げと平均化を促し、新聞の活字などを通じて民主主義の進展にも貢献したのです。しかし、その後、当用漢字が浸透するにつれ、それが持つ制限に不満が高まり、昭和56年に当用漢字が常用漢字へと切り替えられました。

「当用漢字がそれ以外の漢字の使用を制限していたのに対し、常用漢字はあくまでも使用の目安とされました。つまり、常用漢字表にない漢字を使ってもよいことになったのです。奇しくも、その後に情報化社会が到来し、常用漢字の枠を超えたさまざまな漢字を使う風潮が強まっていきました。そのような時代の変化に対応させようとしたのが、平成22年の改定というわけですね(笹原教授)」

このように戦後の漢字使用の基準は、「制限」から「目安」へと変化を遂げてきました。そして、平成22年の常用漢字表改定により、新しい漢字表現の時代に入ったのです。

当用漢字から常用漢字へ

当用漢字の時代

昭和21年(1946) 「当用漢字表(1850字)」が内閣から告示
昭和23年(1948) 「当用漢字別表(教育漢字^{※3})(881字)」が内閣から告示
昭和52年(1977) 学習指導要領改訂に伴い、「教育漢字」が996字に変更

1978年、日本語に対応したワープロが商品化。
同年、日本語の文書データをパソコンなどで処理するために、日本工業規格が選定したJIS漢字コードが作られる。



常用漢字の時代

昭和56年(1981) 「常用漢字表(1945字)」が内閣から告示
平成元年(1989) 学習指導要領改訂に伴い、「教育漢字」が1006字に変更

1995年、Microsoft社のWindows 95^{※4} operating systemが世界を席巻する。
1999年ごろ、携帯電話が普及し、多くの人がメールを使うようになる。



平成22年(2010) 改定された「常用漢字表(2136字)」が内閣から告示
平成24年(2012) 中学校・高校の漢字指導が、新しい「常用漢字表」に対応

※3 小学校学習指導要領の「学年別漢字配当表」に示された漢字を指す。
※4 Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

目安なら常用漢字は覚えなくてもいいの？

社会生活においてよく使われる漢字であるためぜひ習得しておきたい！

私たちはたくさん漢字に囲まれて暮らしていますが、人の名前や地名などには、学校では習わなかったような難しい漢字が使われていることもたくさんあります。また、私たち自身も常用漢字表に載っていない字や読み方を知らないうちに使っていることもあります。「例えば、『腹』の訓読みは『はら』だけですが、『お腹がすいた』のような表記もよく見かけますよね。この『な』という読みは常用漢字表にはありませんが、その使用を制限してはいません。また、『しずく』は『雫』を思い浮かべる人も多いと思いますが、実はこれも表外漢字(常用漢字表に含まれない漢字)で、常用漢字表に従えば、『滴』と書くこととなります(笹原教授)。

このように、日常生活では常用漢字以外の漢字もたくさん使われています。笹原教授によれば、私たちが日常生活の中で使っている漢字の数は、平均すると3000字前後と考えられるそうです。

仮に、多くの人が読む新聞や雑誌、公文書などで難しい漢字がたくさん使われたとしたら、どうなるでしょうか。その漢字を知っている人、知らない人とで情報の理解度に差が生まれてしまうかもしれません。ですから、公に漢字を使用する際には目安が必要となるのです。日常生活で一人ひとりが必要とする漢字の範囲は異なりますが、常用漢字は社会生活において広く使われる漢字ですから、私たちはしっかりと身につけておく必要があると言えます。

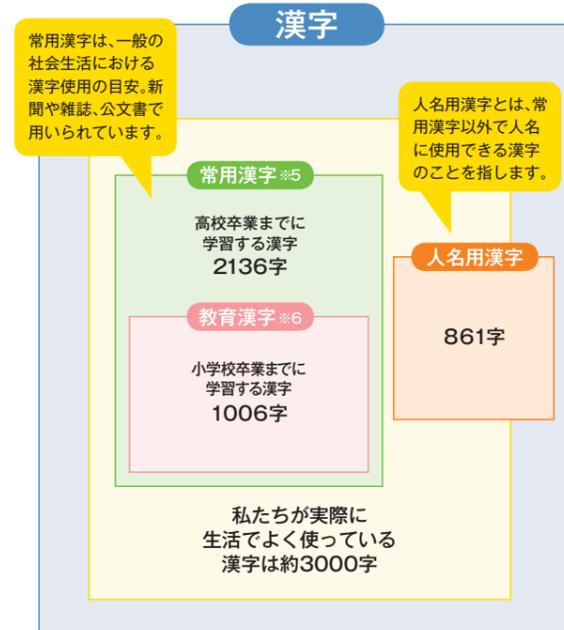
平成24年度から学校教育でも取り入れられる！

学校教育においては、高校卒業までにすべての常用漢字を習うことになっています。平成22年に告示された新しい常用漢字表に基づく教育現場での漢字指導は、平成24年度から対応するところが決まっています。そして漢検でも、常用漢字すべてを習得するレベルである2級で、平成24年度の検定から対象漢字数が2136字となります。

日常にあふれる漢字に目を向け、漢字の世界を広げよう！

常用漢字表の改定は、パソコンや携帯電話といった情報機器で文字を打つようになつた社会に対応させようとする狙いもありました。このような背景の中で、2136字に増えた常用漢字やそれ以外の皆さんの漢字と私たちがどう付き合っていけばよいのでしょうか。笹原教授は次のように話します。

常用漢字の関係図



※5 漢検2級(高校卒業・大学一般程度)の出題対象漢字。
※6 小学校学習指導要領の「学年別漢字配当表」に示された漢字。また、漢検5級(小学校6年生修了程度)の出題対象漢字。

私たちが常用漢字とどう付き合えばいいの？

器で適切な漢字を選んで使いこなすことができればよい」とも述べています。例えば、『憂鬱』を書ける人は多くはありませんが、キーボードを打てば漢字に変換されるため、特にインターネット上で使用頻度が高いという調査結果が出ました。そして議論の結果、『鬱』は常用漢字に追加されました。それでは、なぜ『憂鬱』はひらがなよりも漢字で表記されることが多いのでしょうか。これは、漢字のほうが憂鬱な状態をしっかりと表現できると感じる人がたくさんいることが一因となっています。

常用漢字表に追加されるまでにはこんなストーリーがあった！ 「真面目」から始まる、ドラマティックな常用漢字

漢字使用の実態に合わせていこうと、新しい常用漢字表には多くの現代表記が採用されました。

常用漢字表は「付表」の中で、熟字訓(2字以上の熟字をまとめて読むもの)の読みを定めていますが、その中に興味深いものがあります。例えば「真面目」の読み方。これについて笹原教授は次のように解説します。「『真面目』は、実は江戸時代から使われていた表記です。昔から日本人はそれをひらがなで書くよりも、もっと重厚な印象のある表記にしたかったのでしょう。そこで、中国の書物にあった『真面目(しんめんもく)』を当てて使い始めたのです。真面目は『ありのままの姿』を意味する漢語ですが、今回の改定で『まじめ』と読むことが常用漢字表の付表で定められたのです。すでに一般に定着していた読み方が、200年以上経つてようやく“公認”されたということになります」

この他に、新しい常用漢字表に加えられた特徴的な例を3つ紹介します。

常用漢字表改定に携わった笹原教授の本



漢字の現在 リアルな文字生活と日本語三省堂

最新の当て字や俗字を含めた現代の漢字と日本人の“字感”を考察。「はたち」を過ぎたら「才」は「歳」? など、日本の漢字の実態を、中国、韓国、ベトナムの話を交えつつ多角的に解き明かします。

奈

都道府県名の漢字はすべて採用！

「奈」は主に、神奈川や奈良といった県名や、人の名前を表記するときに使われています。常用漢字表は基本的に固有名詞を対象とするものではありませんが、今回の改定により、都道府県名に使われている漢字はすべて採用。その結果、「奈」の他に、「茨・媛・岡・熊・埼・栃・梨・阪・阜」も常用漢字の仲間入りしました。

麵

「麵」よりも、分かりやすい「麺」に！

ラーメンの「麵」は見慣れた漢字ですが、本来は「麺」。しかし、この字は、読むことはできても「𩺰」の部分の難しさと、原料である麦の旧字体であることも忘れられがちのため、分かりやすく「麦」に変えて書くことがたくさんありました。現在は「麵」が浸透しているため、議論の末、「麵」ではなく「麺」が常用漢字に採用されました。

混む

「混む」は本当は「込む」だった！

電車などが「こむ」のは、たくさんの方が詰め込まれている状態であり、本来は「込む」と表記すべきところでした。しかし、混雑=混むという意識による使われ方が定着したため、今回の改定でその読みが追認されました。「混む」という表記は、実は明治期の新聞にもあったそうで、100年以上かかって認められた読み方となります。

日本人はこうしたニュアンス、つまり言葉の重みと表記の雰囲気が一致することを好みます。それができるのは、漢字一字一字が意味を持つ表意文字(表語文字)だからです。ですから、私たちは漢字への理解を深めるとともに、自分の思いや考えをうまく伝えられる漢字の使い方を身につけたいものです。

常用漢字が、社会生活における漢字使用の目安とされているように、日常にはたくさん漢字があふれています。皆さんも世の中でどのように漢字が使われているかを、関心を持って観察してみてください。そう考えると、看板もテレビもマンガも、漢字に触れることのできる立派な教科書になるはず。それに気付けば、きっと今よりも漢字の世界が広がって、楽しく漢字と付き合えるようになるでしょう。たくさん漢字を目にし、気付き、触れて使っていくことが、常用漢字はもちろんのこと、多くの漢字を楽しむコツだと言えます。

詳しい情報は漢検ホームページ (<http://www.kanken.or.jp/>) をご確認ください。

漢字と言葉の おもしろい 研究所

毎回、漢字や言葉の面白さを
さまざまな側面から
紹介していきます。
意外な事実が見えるかも!?

第2回

今回の研究

ものの数え方から 分かること



中央大学
飯田 朝子 教授

(いいだ あさこ)
1969年東京都生まれ。東京女子大
学、慶應義塾大学大学院を経て、
1999年東京大学人文社会系研究科
言語学専門分野博士課程修了。博士
(文学)取得。2009年より現職。
主に、日本語の助数詞の意味と用法
について研究している。著作に『数
え方の辞典』(小学館)、『数え方で
みがく日本語』(筑摩書房)などが
ある。

助数詞はもの の捉え方を 映し出す鏡



※鮭の場合、40尾を「一石」と
数えることもある

※本来、親が1回の産卵で生む卵のひとまとまりを
「ひと腹」と言います。そのため筋子ひと腹は、
卵のまとまり2本を指します。

ものを数えるときに使う言葉のこ
とを「助数詞」と言いますが、私た
ち日本人は、たくさん助数詞を細
かく使い分けてきました。例えば、
勉強机の上を思い浮かべてみてくだ
さい。教科書やノートは「冊」、え
んぴつは「本」、下敷きは「枚」、ペ
ンケースや消しゴムは「個」と
いう具合に数えます。数え方の研究
者である飯田教授の著書『数え方の
辞典』には、約500もの助数詞が
紹介されているほどです。日本語の
豊かな「数え方の文化」について、
飯田教授は次のように語っています。

「日本語における助数詞は、その
人が数える対象をどのように捉えて
いるかを映し出す鏡のように役割を
果たしてきました。分かりやすいの
は鬼の数え方です。おとぎ話の鬼は、
暴れて人間を困らせる場面では「一
匹」と数えられ、心を入れ替えて人
間的な性格を持つと「一人」と数え
られるようになります。人間にとつ
て、より友好的な存在ほど「人(一
人、二人、にん)」で数える傾向が
あるのです。これは天使と悪魔の数
え方でも同様で、天使は「一人」と
数えるのに対し、悪魔は「一匹」と
数えるのが一般的です」

同じものでも状態や形状、使われ
方が変わると数え方も変わることが
よくあります。特にたくさん助数
詞を持つのは魚です。海や川を泳い
でいる状態では「一匹」ですが、水
揚げされて取り引きされるようにな
ると「一本」、鮮魚店に並ぶと「一尾」
と数えます。その他にヒラメやカレ
イなどの平面的な魚を「一枚」と数
えたり、切り身になるとサイズに
よって「一丁」「ひとさく」「ひと切
れ」と数えたりもします。飯田教授
は、同じものでも助数詞が変わること
で、そのものの印象が変わること
も指摘します。

同じものでも数え方が 変わることがある



漢字と言葉のママ知識

「1回」と「1度」はどう違う?
「回」も「度」も行為や出来事を数える助数詞ですが、その使
い方には少し違いがあります。定期的に行われる行為や催し
を数える際に「回」を使うのです。つまり、「第3回〇〇大会」
とは言いますが、「第3度〇〇大会」とは言いません。その一
方で、再び繰り返されることが予測・期待されにくい行為や
催しには「度」を使います。例えば、「仏の顔も三度まで」と
いう言い方がありますが、「仏の顔は三回まで」とは言いま
せん。「回」を使うと、次があることを期待させてしまうので
す。

このように、助数詞は言葉の表現
の豊かさの一端を担ってきました。
最近では、汎用的に使える「ひとつ」
「一個」を何にでも当てはめて済ま
せてしまう傾向があるようですが、
暮らしの中の助数詞を意識して集め
たり、なぜそういう数え方をするの
かを調べたりすると、日本語と漢字
の奥深さを再発見できるかもしれま
せん。

若手研究者に聞く!

漢字研究ってこんなところが面白い!

漢字は誇るべき日本文化であり、奥深い研究テーマでもあります。今回は、あまり知られていない漢字研究の世界について、「漢検 漢字文化研究奨励賞」を受賞された若手研究者に伺います。

漢検 漢字文化研究奨励賞

漢字研究、漢字に関わる日本語研究、漢字教育など、広く漢字文化に関わる分野における優れた学術的研究・調査等に対して、その功績をたたえ社会全体に広く公表していく制度です。漢検ホームページにて過去の受賞論文をご覧いただけます。

※受賞者の学年は平成22年度時点の学年です。

漢字、書道との出会い
私はサハリン出身です。サハリンは日本に近く、日本総領事館や企業の支社があり、日本とロシアの人と文化の交流の場になっていきます。こうした環境下で、私は日常生活の中で漢字を目にして育ってきました。例えば、輸入中古車の車体に書き残された漢字もそのひとつです。ロシア語や英語とは違う、謎めいた現代アートのような漢字に次第に魅せられ、日本語の勉強を始めました。その後、ロシアの大学に在籍していたときに、交流に来た日本人学生から書道を紹介されました。毛筆で書かれた美しい曲線と筆の動きに目を奪われ、日本文化や日本の文字、

さらには書道のことをもっと知りたいたいと思うようになりました。しかし、ロシアでは書道用具が手に入りませんでしたので、文部科学省の日本語・日本文化研修留学プログラムを利用して日本の大学へ行くことを決めました。
日本語教育と書道
私自身も外国人として書道を学んでおり、世界中の国々から訪れる外国人留学生と交流する中で、書道を教えることもありました。その経験から、外国人ならではの見方、書き方、クセなどをうまく利用すれば、満足のいく日本語学習ができるのではないかと考えるようになり、今回



漢字教育に関する研究発表を行いました。



北野天満宮での新年の書き初めに参加しました。

実用可能な研究を目指します

佳作受賞

受賞者
京都大学大学院 人間・環境学研究院 博士後期課程1年※
ナザロフ・エカテリーナさん
Nazarova Ekaterina

論文名
外国人を対象とする日本文字学習の枠内で書道教育の導入、指導方法とその特徴について

書道を通じて、外国人に日本語の勉強を好きになってもらうことを目標にしています。



ロシア人の高校生に書道を教えています。

研究内容について聞きました!

日本語を学習する外国人にとって、ひらがな・カタカナ・漢字の文字学習はとても難しいものです。特に、漢字学習がきっかけで日本語学習に消極的になっていく外国人も少なくありません。そこで、外国人の日本語学習を「苦手」から「得意」にさせる方法のひとつとして、「書道教育の導入が有効ではないか」と考えました。そして、研究論文では書道教育の実践によって得られた結果を分析し、外国人の美意識、考え方の特徴を生かした書道の指導方法を紹介しました。



研究の様子。字体の歴史をひも解きます。



「広」や「鉞」の異体字を探した資料(小坂町立総合博物館郷土館所蔵)

今回の研究は「広」という字体に着目し、その誕生の経緯を探りました。調査のために広島県立図書館や全国の鉞山資料館を訪ねて、そこに保管されている昔の資料を1枚1枚めくり、「広」という字体がないか探しました。合計2000ページ以上の膨大な資料を何回も何回も見直すという気の遠くなる作業でした。このように漢字研究には地道な作業が付きものですが、コツコツと積み重ねて得られる新しい発見は何事にも代えがたいものがあります。それは、ときに従来の学説を覆すこともあり、とてもやりがいを感じています。

研究内容について聞きました!

私の研究は「普段使っている漢字がいつ、どのように生まれたのか」を探る研究です。今回注目した「広」は、実は戦前まであまり見かけない字体でした。「廣」などの異体字が広く使われていたのです。調査の結果、明治期に鉞業が盛んになるにつれて「鉞」(「鉞」の異体字)が頻繁に使われるようになり、鉞業関係者の中で省略が繰り返されて「鉞」となり、それが「廣」に転用されて「広」という新しい字体が生まれた可能性があることが分かりました。「近代化の波が漢字の字体までも変化させた」と言えます。

地道な作業が新しい発見を生み出します

漢字研究との出会い
好きで選んだ文学部でしたが、大文学部入学当時はそこで何をしたいのかが漠然としていました。そんな私が漢字研究の面白さに気付いたのは大学2年生のときに受けた授業がきっかけです。それは漢字の字体に関する授業でした。難しい旧字体の漢字

テストもありましたが、何より各自が好きで選んだ漢字を選び、その字体がきた経緯を調べる課題が楽しかったのを覚えています。そのときに選んだ字体は「塩」です。たった漢字1字ですが、その一字の歴史をさかのぼることによって、現在では使用されていない漢字が過去には多く使用されていたことが分かりました。私

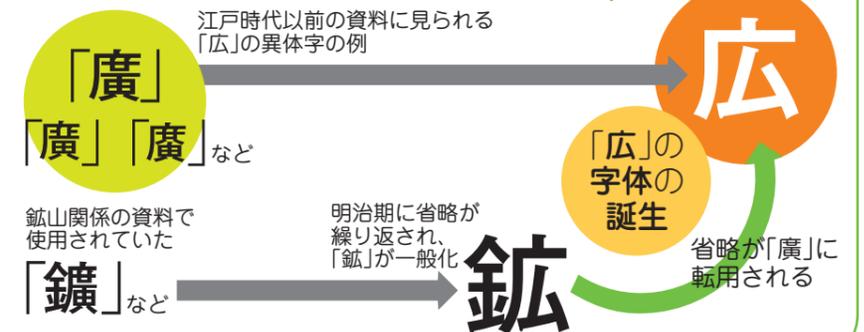


優秀賞受賞

受賞者
東北大学大学院 文学研究科 博士前期課程1年※
山下真里さん
論文名
「広」の字体について
―略字体の出現時期とその要因―

「広」という字体がどのように生まれたのか、過去の資料をたどり発見しました!

◎「広」の字体はこうして生まれました



中級

初級よりも少しレベルアップ。
リストの漢字を空いているマスに入れて、熟語しりとりをしましょう。
※1度使った漢字は他の問題では使えません。

- 1 緊 [] ⇨ [] ⇨ [] ⇨ []
- 2 魔 [] ⇨ [] ⇨ [] ⇨ [] 嘆
- 3 撮 [] ⇨ [] ⇨ [] ⇨ []

- リスト
- 範 真 迫 球
感 圧 団 剣 影
法 威 豪 師

ヒント!
光が人に当たって
できるものです。



上級

さらにレベルアップした熟語しりとり挑戦!
「?」のマスに入る漢字も考えてみてください。
※1度使った漢字は他の問題では使えません。

- 1 勇 [] ⇨ [] ⇨ [] ⇨ [] 胆
- 2 謙 [] ⇨ [] ? ⇨ [] ? ⇨ [] 架
- 3 渦 [] ⇨ [] ? ⇨ [] ⇨ []

- リスト
- 狩 潮 魂 橋
鬪 狛 敢 譲
道 犬 ? ?

ヒント!
2問目の「?」は8画、
3問目の「?」は3画です。



頭の体操! 漢字パズル&クイズ

家族みんなで、楽しい漢字パズル&クイズに取り組んでみましょう。
今回、挑戦していただくのはこちらです。

例題

熟語しりとり

- 初 版 ⇨ 版 画 ⇨ 画 集 ⇨ 集 結
- リスト
画 版 集

出題：スカイネットコーポレーション イラスト：あきんこ

解答は▶23ページに掲載

リストの漢字を空いているマスに入れて熟語しりとりをしましょう。
隣り合ったマスには同じ漢字が入ります。初めて出合った漢字や
熟語は意味を調べてみましょう。

初級

リストの漢字を空いているマスに入れて、熟語しりとりをしましょう。
3問目は、最後のマスの漢字もリストから選んでください。

- 1 努 [] ⇨ [] ⇨ [] ⇨ [] 卵

- リスト
- 産 力 量

- 2 雑 [] ⇨ [] ⇨ [] ⇨ [] 続

- リスト
- 面 誌 接

- 3 探 [] ⇨ [] ⇨ [] ⇨ []

- リスト
- 秘 極 究 境



ヒント!
最後のマスの漢字は、
訓読みで読むと「さ」
から始まります。

漢検トピックス

財団法人 日本漢字能力検定協会の活動について紹介します。



検定情報



重要!

平成24年度からの「漢検」に関する重要な変更のお知らせ

1 5級〜10級の検定料を引き下げました。

平成24年度第1回検定から、漢検の5級〜10級の検定料を改定しました。5級〜7級は各1,500円に、8級〜10級は各1,000円に引き下げています。

〈検定料を改定する級〉

級	従来	新検定料
5級	各1,800円	各1,500円
6級	各1,800円	各1,500円
7級	各1,800円	各1,500円
8級	各1,400円	各1,000円
9級	各1,400円	各1,000円
10級	各1,400円	各1,000円

※1級から4級までは従来と同額です。
※「漢検CBT」については、検定日が平成24年4月16日以降の検定に対して新検定料を適用します。

2 平成24年度から漢検の審査基準を改定しました。

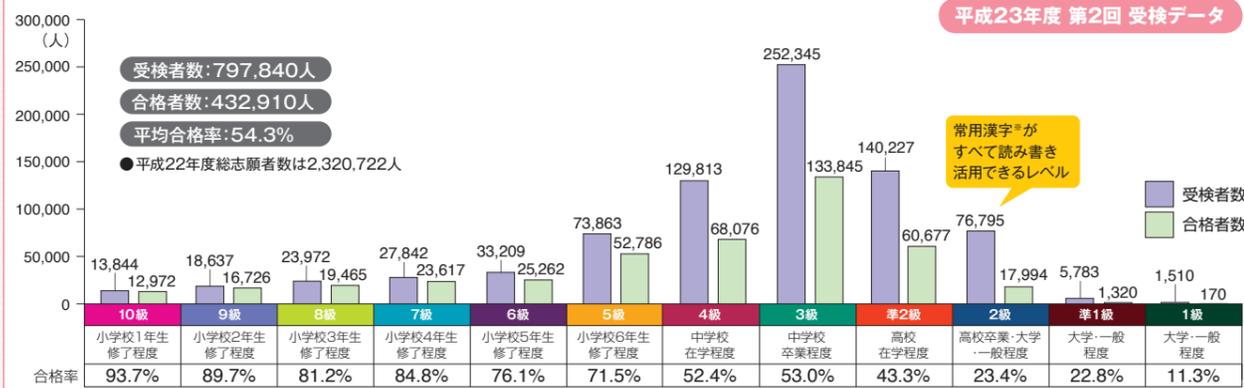
平成22年11月に新しい常用漢字表が告示されたことに伴い、平成24年度第1回検定から漢検の審査基準を改定しました。
一部の級の対象漢字数や領域・内容に変更がありますが、各級のレベル(例…3級「中学校卒業程度」や合格基準(例…3級「200点満点70%以上」)の変更はありません。詳しい情報は漢検ホームページをご覧ください。

3 漢検の書籍をリニューアルしました。



〈改訂書籍〉
「漢検 漢字学習ステップ」2級〜10級 計10種
「漢検 分野別問題集」2級〜6級 計6種
「漢検 ハンディ漢字学習」2級〜6級 計6種
「漢検要覧」1/準1級対応、2〜10級対応 計2種
「漢検 四字熟語辞典」ほか

新しい審査基準による検定に向けて学習する方のために、当協会発行の書籍を新審査基準に対応した内容に改訂しました。左記の書籍は、お近くの書店またはインターネットを通じてご購入いただけます。



被災者支援

東日本大震災に
おける被災者支援の
ご報告(第2回)

昨年の東日本大震災により被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。当協会は、これまでに①東北3県の教育委員会などへの教育目的の寄付金・義援金の提供、②小・中学校への協会書籍の寄贈、③震災の影響により自己負担による漢検受験が困難となった児童・生徒への受験機会の無償提供など、総額約5000万円の被災者教育支援を実施しました(3月1日現在)。今後も文部科学省や被災地の各教育委員会と連携を図り、さらなる支援を継続してまいります。
※被災地の小学校・中学校・高等学校の先生方へ被災者教育支援に関するお問い合わせは協会・被災者教育支援担当(03・5205・0333)までご連絡ください。



調査報告

「漢検」資格活用状況
調査結果発表

当協会は、昨年7月から12月にかけて大学・短期大学、高等学校、専修学校を対象に行った「漢検」資格活用状況調査の結果を発表しました。今回の調査では、大学・短期大学458校1029学部・学科、高等学校1357校が「漢検を2012年度の入試で活用している」と回答しました。
※2012年1月17日発表・当協会調べ



研究支援

漢字文化
シンポジウム開催
(京都)



昨年12月に第1回AEARU漢字文化シンポジウム(京都大学主催、東アジア研究型大学協会「AEARU」・当協会共催)を京都大学で開催しました。その関連イベントである市民公開シンポジウムでは中国・香港・台湾・韓国の研究者らを迎え、「東アジアの漢字文化振興と漢字教育」についてパネルディスカッションを行いました。



イベント報告

「漢字の力」
シンポジウム開催
(宮城・東京・福岡)

当協会は「漢字の力」シンポジウムを全国各地で開催しています。2月に東京都(朝日新聞社共催)および仙台市(河北新報社共催)で、3月には福岡市(西日本新聞社共催)で開催。ジャーナリストの池上彰さんや作家の高樹のぶ子さんなど各界でご活躍の方をお招きし、コミュニケーション力や思考力を支える「漢字の力」について考えました。

解答

頭の体操! 漢字パズル&クイズ
熟語しりとり
問題は20ページに掲載

上級

- 1 勇敢 → 敢闘 → 闘魂 → 魂胆
- 2 謙讓 → 讓步 → 歩道橋 → 橋架
- 3 渦潮 → 潮干狩 → 狩猟 → 猟犬

初級

- 1 努力 → 力量 → 量産 → 産卵
- 2 雑誌 → 誌面 → 面接 → 接続
- 3 探究 → 究極 → 極秘 → 秘境

中級

- 1 緊迫 → 迫真 → 真剣 → 剣豪
- 2 魔球 → 球威 → 威圧感 → 感嘆
- 3 撮影 → 影法師 → 師範 → 範囲

お詫びと訂正

前号「漢検ジャーナルVol.5」10ページの「漢字と言葉の「おもしろ」研究所<流行の名前の漢字から分かること>」におきまして、誤字がありました。正しくは以下となります。本文下段4行目 ×「収獲」→○「収穫」
お詫びして訂正いたします。

「漢検ジャーナル」への感想募集中!

「漢検ジャーナル」をご覧ください。誠にありがとうございます。当協会では「漢検ジャーナル」へのご意見・ご感想を受け付けています。今後の制作に役立ててまいりますので、漢検ホームページの「漢検ジャーナル」感想受付フォームより、皆さまのお声をお寄せください。

各種検定情報などの詳細は漢検ホームページをご確認ください。「漢字文化シンポジウム」の様子は京都大学ホームページ (<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/international-conference/24>) で視聴できます。